

G7宮崎農業大臣会合を契機とした持続可能なみやざき農業の実現に向けた取組について

G7宮崎農業大臣会合（4/22～23）

- 世界的な課題である**食料安全保障の強化**に向け、G7各国の農業大臣が議論
- 本県の高校生が、**持続可能な農業の実現に向けたイノベーションの推進**や、**農業の魅力発信、食への感謝と農業教育**について提言
- 本提言等を踏まえた会合における議論の結果、今後の農業・食料政策の方向性として、
(ア)**自国の生産資源を持続可能な形で活用**すること
(イ)農業の**生産性向上と持続可能性の両立**
(ウ)あらゆる形の**イノベーションにより、農業の持続可能性を向上**させること
について共通認識
- 本会合での議論を取りまとめた共同声明とともに、G7各国が取り組むべき行動を要約した「**宮崎アクション**」を採択



高校生の提言



宮崎アクション（抜粋）

我々G7農業大臣は、より生産力が高く、強じんて持続可能な農業・食料システムを達成するために、宮崎で議論した以下の点を踏まえ、国際社会の一員として積極的に取り組んでいく。

- 既存の**国内農業資源を持続的に活用**し、貿易を円滑化しつつ、地元・地域・世界の食料システムを強化する途を追求し、サプライチェーンを多様化する
- あらゆる形の**イノベーションの実施**や**持続可能な農業慣行の促進**により、農業・食料システムの持続可能性を向上させる
- 研究・開発を促進するとともに、地元のニーズや状況に応じた、**更なるデジタル化を含む新規・既存の技術や慣行を拡大・普及**させる

本県農業の課題

- 海外資源（燃油、化学肥料、家畜飼料等）に過度に依存した生産構造
- 家畜排せつ物など豊富な地域資源のさらなる活用

我が国有数の食料供給基地として、その持続性が懸念

G7宮崎農業大臣会合及び「宮崎アクション」の採択を契機として、官民連携による地域資源の新たな価値（イノベーション）の創出により、持続可能な循環型農業の実現を加速化

～官民連携による地域資源を活用したモデルプロジェクト～

③施設園芸における化学肥料から有機肥料への転換

（西都市）

- ・国内バイオマス由来原料から肥料成分を抽出し、化学肥料から有機液肥への転換による海外資源依存からの脱却

【R5.4.10】
連携協定締結（旭化成×JA宮崎経済連×県）

④ピーマン収穫ロボットの早期実装

（県域）

- ・ピーマン収穫ロボットの機能向上やロボットに適した栽培方法の開発による早期の現場実装

【R5.4.26】
連携協定締結（AGRIST×マクニカ×県）

①新たなバイオマスの産地化及び製品化

（川南町、都農町）

- ・バイオマス生産用ソルガム及び早生樹の産地化
- ・バイオマス燃料、アルコール原料、家畜用飼料としての活用によるエネルギー創出

【R5.4.19】
連携協定締結（双日×県）

②家畜排せつ物等を活用した集中型バイオガス発電

（新富町）

- ・酪農、肉用牛の排せつ物を主体とした集中型バイオガス発電の事業化によるエネルギー自給
- ・バイオガス発電残渣の液肥商品化によるカスケード利用

【R5.4.17】
連携協定締結（新富町×バイオマスリサーチ×県）

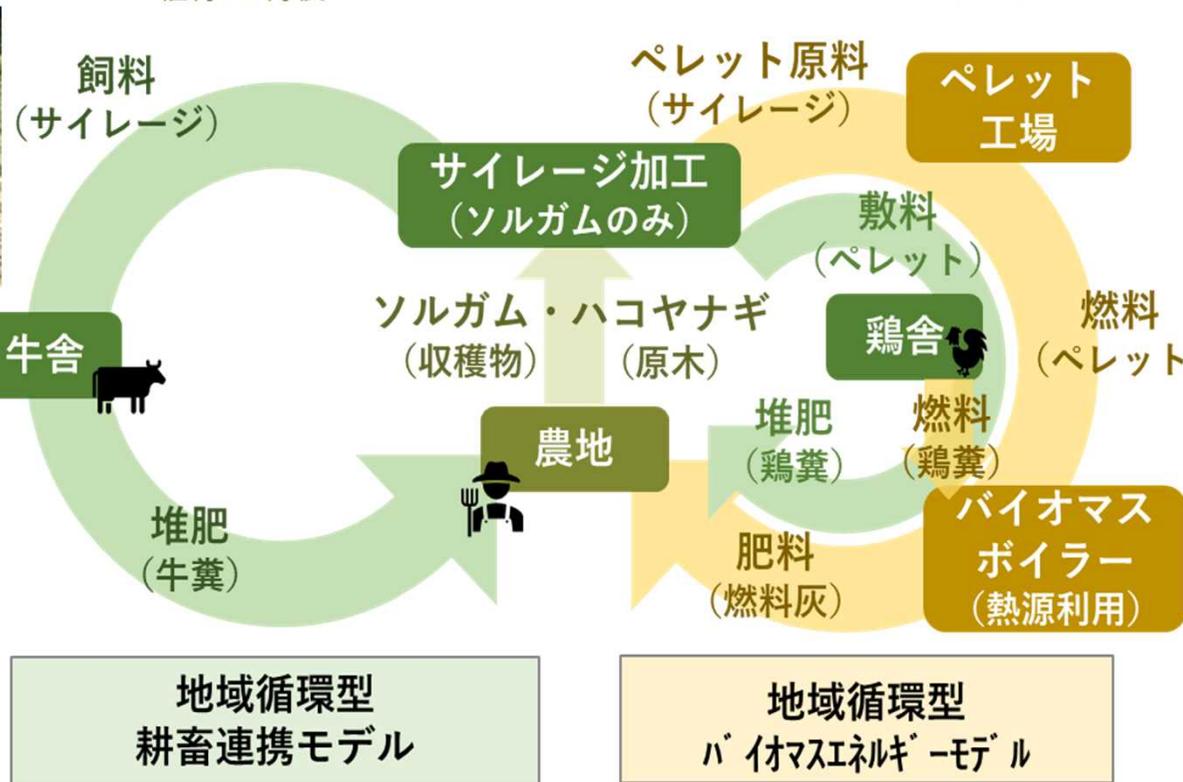
今後、官民連携プラットフォームを構築し、地域資源の新たな価値の創出を更に加速

① 新たなバイオマスの産地化及び製品化 (双日×県)

○ 遊休農地を活用し、早生樹及びソルガムといった**新たなバイオマスの産地化**により、**燃料、肥料、飼料の国産化等**の資源循環の仕組みを構築



遊休農地を
活用した産地化

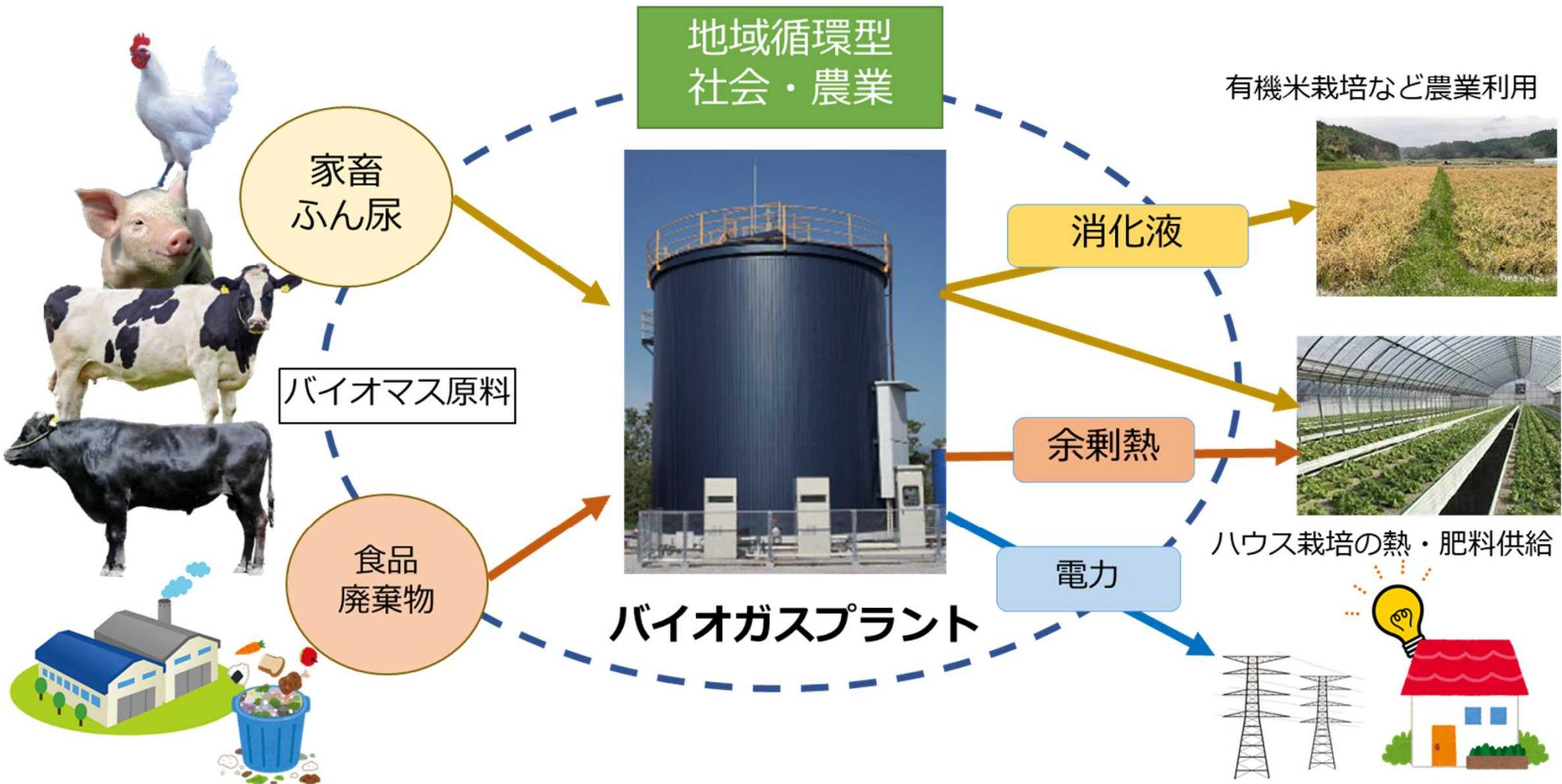


地域循環型
耕畜連携モデル

地域循環型
バイオエネルギーモデル

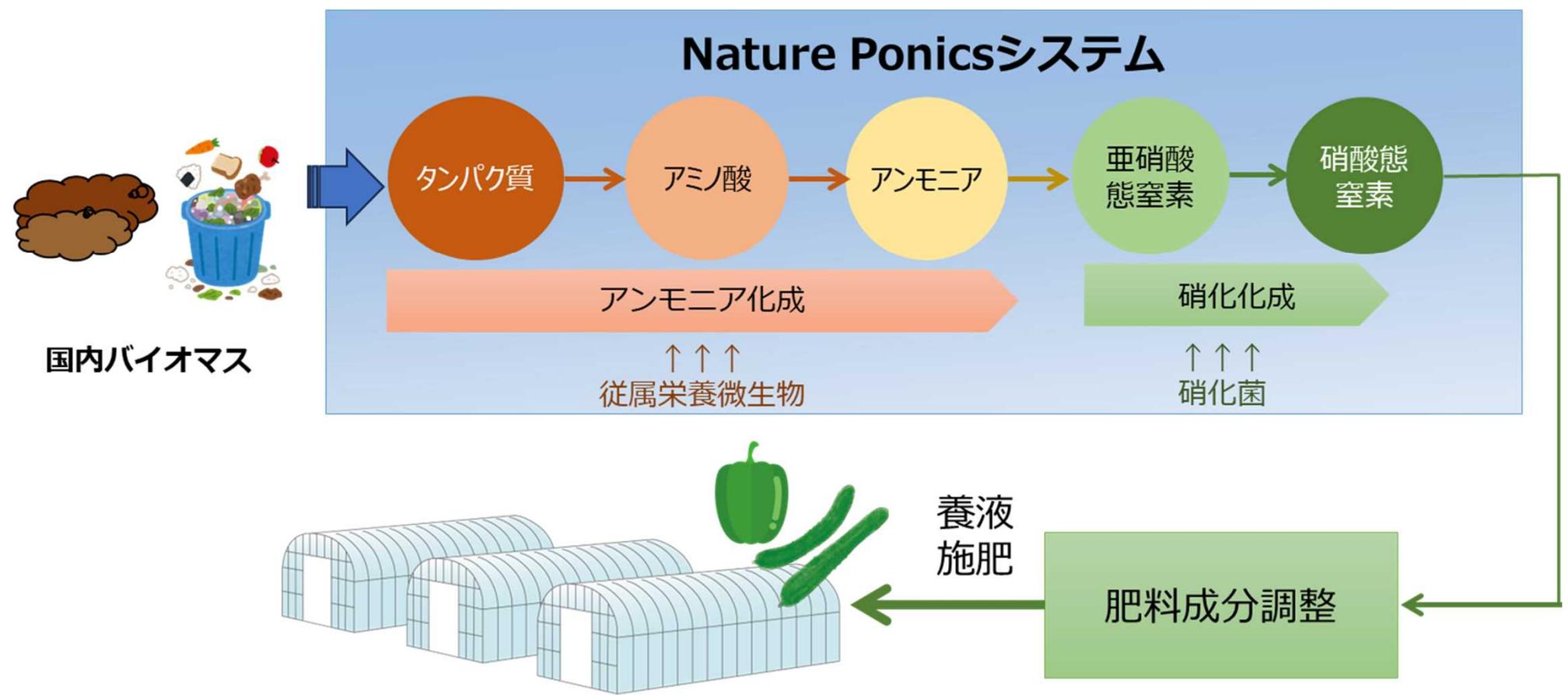
② 家畜排せつ物等を活用した集中型バイオガス発電（新富町×バイオマスリサーチ×県）

○ 複数の経営体からの家畜ふん尿を主体とする**集中型バイオガス発電**（南九州で稼働例なし）により、**新たなエネルギーの創出**及び副産物である**消化液や余剰熱の農業利用**により、資源循環システムを構築



③ 施設園芸における化学肥料から有機肥料への転換（旭化成×JA宮崎経済連×県）

○ 有機物から液肥を自動で生成する「Nature Ponicsシステム」の実装により、国内バイオマス由来の有機液肥を利用した施設園芸システムを事業化し、資源循環型農業に寄与



④ ピーマン収穫ロボットの早期実装（AGRIST×マクニカ×県）

- 労働人材不足と収穫遅れが課題となっているピーマン生産現場において、**ピーマン収穫ロボットの早期の現場実装**と、同ロボットを活用した**新たな技術の導入**により、持続可能な農業の実現に向けた次世代農業の仕組みを構築

ピーマン収穫ロボットによる収穫作業の省力化と生産性向上

収穫が追いつかない...
人手も足りない...



【収穫ロボットに適した栽培方法の検討】

- 収穫しやすい仕立て方の検討（垣根仕立てなど）
- ロボットの収穫作業効率UP、収穫量UP

【ピーマン収穫ロボットの精度向上 ・機能付加】

- 収穫能力向上（収穫スピード、精度）など
- ハウス内環境測定（温度、CO2濃度等）など
- 収穫量UP、収穫作業の省力化



【普及人材の育成】

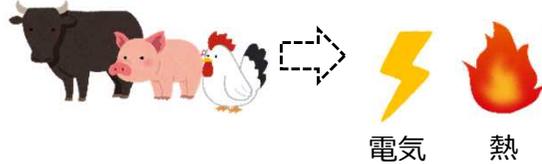
- 普及員の現場視察など
- 県内へ普及促進、生産量UP

新 G7から始まる官民連携農業プロジェクト事業

<2. 農業構造転換加速化事業>

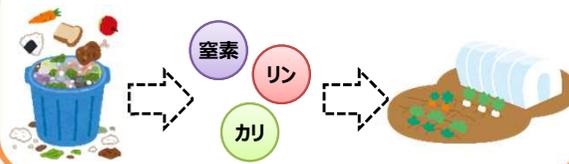
プラットフォームで構築された「事業化検討プロジェクトチーム」による事前調査・事業性評価等を支援

家畜排せつ物によるエネルギー創出



プロジェクトA

化学肥料に代わる有機質肥料の実装



プロジェクトB

自動収穫ロボットの現場実装



プロジェクトC

【プロジェクトD】
.....

【プロジェクトE】
.....

<1. 官民連携プラットフォーム運営事業>

生産者や多様な事業者等が参画するプラットフォームの設置・運営

事業化検討プロジェクトチームを構築し、
持続可能な農業の実現に向けた官民連携農業プロジェクトを推進



個別
協議

面談

マッチング

エントリー

周知・募集

- ・地域で有効活用できそうな資源がある
- ・輸入肥料・飼料を国産に切り替えたい

- ・独自の技術を使って地域に貢献したい
- ・地域資源の活用アイデアがある

県内の農業者・市町村等

民間企業等